

2023年11月16日

2024年3月期 第2四半期決算説明会 質疑応答(要旨)

(Q1)販売数量の減少トレンドが止まっていないように見えますが、今後の見通しや打開策についてお聞かせください。

(A1)通期の生産・販売数量見通しは、エネルギー危機に伴うインフレと景気低迷によるステンレス需要の落ち込み及びそれに伴うNPIとの競合による販売価格の低下が主な要因です。

当社としては、事業環境の変化を敏感に捉え、増産も視野に、状況に応じた最適な生産販売体制を継続していく所存です。

(Q2)他社様ではリサイクル原料活用などの動きもあるようですが、御社としてフェロニッケル製錬の脱炭素化について今後の取り組み内容をご教示ください。

(A2)従来の省エネ活動に加え、GHG排出量の少ない原燃料への転換及び新技術の導入検討に向け取り組んでいます。その中で、ニッケル鉱石の煅焼工程での石炭使用量の大幅な削減に向け、マイクロ波を活用した電化プロセスの検討を進めております。実験室レベルでの試験では目的とした反応が確認できており、より規模の大きい試験への移行を決定しております。

(Q3)一般炭や電気料金等はピークを打ったと思いますが、上期から下期にかけてエネルギー等のコスト水準についてはどのように変化するかご教示ください。

(A3)特にここ2年で、資源エネルギーの環境は大きく様変わりしており、ロシアのウクライナ侵攻はこのエネルギー危機を深刻化させて、空前の価格高騰を引き起こしました。当社は電力多消費産業であることから、非常に大きな影響を受けています。

エネルギー資源価格は、平時と比べて、原価へ倍以上も重くのし掛かっており、コスト低減も困難を極めております。

下期については、比較的落ち着いた基調となっており、当社の業績見通しにおいては、足許の水準を参考とした価格帯を適用しております。

(Q4)今後の業績改善に向けた収益改善施策についてご教示ください。

(A4)減産を実施しており、損失の圧縮を図っておりますが、これは比較的短期的な対策であると認識しています。

当社では、厳しい環境基準をクリアしてフェロニッケルを生産しており、更に昨年より推し進めている煅焼工程における化石燃料削減を目的としたマイクロ波活用の研究開発等、カーボンニュートラル対応でのグリーン製品を顧客へ提案することで、需要の回復と拡大、収益増加を目指して参ります。

これらに加えて、中期経営計画の重点施策として海外事業の展開、新規事業の創出、リサイクル事業の再構築を強く推し進めており、市況影響を受けにくい事業を展開することで安定的な収益の基盤を構築していきます。

(Q5)為替の変動が収益に与える影響を教えてください。

(A5)影響額は感応度に関することなので差し控えさせていただきますが、基本、海外から原料燃料を調達し、フェロニッケルを生産し、ドル建てで販売しますのでメリットとなります。

(Q6)今後、新たな減損発生の可能性、業績回復のための施策やコスト削減策について教えてください。

(A6)減損の発生の可能性については、営業赤字が継続した場合に、会計基準に従って固定資産の評価を検討します。

コスト削減などについては、原材料及び物品の調達コスト、物流コスト、電力コスト、生産原単位、設備投資、固定費の削減、省エネ、リサイクルニッケル資源の調達等々、生産コスト削減のためのあらゆる可能性に取り組んでいるところです

(Q7)業績の底はいつでしょうか。その理由はなんですか。

(A7)当社のフェロニッケル生産は、一時期のエネルギー価格の高騰は落ち着きを見せ、在庫の一巡及びエネルギー価格の電力料金への反映にはタイムラグがあるものの、正常化されることで、生産コストの改善を見込んでおります。ご質問の時期については複合的な要因も重なるため、容赦いただけますようお願いいたします。

(Q8)LIBリサイクルは、他社も参入を表明している事業であるが、エマルションフローテクノロジー社の計画しているLIBリサイクルの特徴、強みは何ですか。

(A8)エマルションフローテクノロジー社が目指しているLIBリサイクル事業構想には、原料であるブラック・マスを一安定的に供給できる大手のリサイクル企業がパートナーとして参加しています。更に技術面の強味としては、ブラック・マスからレアメタルを分離、精製するプロセスでエマルション・フロー技術を採用していることです。

このエマルション・フロー技術は、従来技術に比べ10倍以上の生産効率がありますので、設備のダウンサイズが可能となり、加えてランニング・コストを低減できる利点があります。

(Q9)新たな金属製錬プロジェクトについて、受託製錬による利益や効果はどの程度見込んでいますか？

(A9)現在、The Metals Company社と覚書を締結すると共に、今後八戸製造所の設備の活用や創業以来、様々な合金鉄製造事業で培った製錬技術等も活用し、検討を進めている最中であり、現段階では申し上げられませんが、確実に利益が出る方向で検討を進めて参ります。

(Q10)今期は大きく販売数量を減らしていますが、第2四半期決算実績の連結経常損益分析の販売数量を見ると効果があまり見えないようです。数量を減らした方が赤字になるのではないのでしょうか。

(A10)第2四半期の分析の表は、前期の損益を基準として、当期の損益まで要因ごとに比較して、推移させております。前期と当期の販売単価、仕入れ単価の水準は、環境は日々変化しておりますので、同じではありません。例えば、前期と当期の販売単価は、前期の単価がやや高くなっています。当期の販売数量は少ないので、前期を基準にすると減収幅は大きくなります。一方で、当期の数量の抑制方針は、当期の単価水準で、数量を増やした場合と減らした場合を比較して、減らした場合の方が損益的によかったため、数量を抑制しております。

(Q11)直近のニッケルの市場動向(class1,class2)、特に中国の乱売になっていない状況をわかりやすく教えてください。

(A11)現在、Class1ニッケル市場で生産・販売を大きく増やしているのはEVバッテリー原料用の硫酸ニッケルやニッケル地金で中国を中心に年々増加しております。また、class2ニッケルNPIの生産大国インドネシアではNPIをclass1ニッケルの原料となるニッケルマットにコンバートする動きを加速しております。足許では経済が減退傾向にある中国での需要が弱含んでおりますが今後世界的に加速するであろうEV化に向けてその需要に応える準備は着々と進んでおります。

一方、NPIやFeNiに代表されるclass2ニッケルはステンレス生産大国中国では足許、需要弱含みが見られますが、class2ニッケルのEV用途化拡大や、期待される中国経済回復に伴う需要増により、一定の需給引き締まりに繋がるものと予想しております。

(Q12)資本コストをどう考えているのでしょうか？重点施策の効率性をどのように考えていますか？

(A12)目標とする財務指標は、事業特性上、コモディティ市場、為替、資源ナショナリズムの影響など、予測困難度の高い外的要因を大きく受けますこと、ほかにも、製錬技術を活用・応用した新規事業については、投資規模によっては比較的長期間の協議を必要とすることもある、目標数値等は定めておりませんが、資本コストを超える効率性は、目標の一つとして捉え、認識しております。なお、最新の事業環境や業績、重点施策の情報は、決算説明会などにて説明して参ります。

(Q13)NPIのニッケル価格とLMEのニッケル価格ではどれくらい差があるのですか。今後、差はどうなりそうですか。

(A13)NPI価格はタイムラグがあるもののおおむね、LME価格の上昇下降やステンレス市況、ステンレス原材料の需給、為替に連動しますが、LME程の大きなボラティリティはありません。ここ数年は17,000ドル程度と安定的に推移しておりますが、LME価格の乱高下が大きく、価格差が一時8,000～10,000ドルと非常に大きく開いた時期がありました。

足元ではLME価格が下降気味で、NPI価格が上昇傾向となり価格差は4,000ドル台まで縮まっております。足元の需要は厳しい状況ではありますが、NPIがEV用の原料として脚光を浴び、今後需要が拡大することが考えられます。価格差についてはLME次第ですが大きな差が開くことはないと考えております。

以 上